

時間切れで来た道を引き返す

The image is a topographic map of Mt. Sanbun (三方分山) and the surrounding area. A red line traces a route starting from the top center, heading south, then west, then south again, and finally west towards the bottom center. Two yellow callout boxes with black text and red arrows point to specific locations on the route. The map shows contour lines, rivers, and various geographical features like lakes and mountains. Labels include '三方分山', '甲府市', '富士河口湖町', '精進の大スキ', '精進湖', '富士五湖', 'パノラマ台', and '烏帽子岳'. Elevation markers are scattered throughout the map.

積雪期にパノラマ台までの山行を計画。時間もあったため、三方分山の周回コースへ計画変更。尾根道は、雪の吹き溜まりもあり、時間がかかる。周回コースを諦め、元来た道に戻る決断をしたのは、午後3時。夕暮れ間近であった。積雪期の行動判断の重要性を示す事例である。

パノラマ台まで、雪のため通常の3倍の時間を費やす。それでも、時間があつたため、三方分山への周回コースを辿った。尾根上は、積雪が約1mもあり、行動に時間がかかる。午後から、曇ってきた。山頂に到着し、時間も午後3時を回り、不安がよぎる。このまま新雪を精進湖トンネルの方まで下るか、元来た道に戻るか2つの選択は、「元来た道に戻る」であつた。吹雪いていないため、トレースが消えることはなかつたが、元来た尾根上の道は積雪のため歩きづらかつた。真っ暗闇となり、心細いヘッドライトの明かりを頼りに、歩き続け、午後10時35分ようやく元の駐車場に辿り着いた。(HP参照)

トレースのない尾根道。積雪が1m近くあり、通常時とは全く違うスピードでしか歩けない。冬期に暗闇が迫ってくる不安。単独行。精進湖トンネルへ進んだ方が、近道だが、ラッセルと不安がそれを許さない。しかし、トレースがしっかりしていたため、戻った方が懸命だつたようにも思われる。「突っ込むのか、戻るのか」どのタイミングで判断するのか自問自答が繰り返される。こういう経験は皆さんしたことがあるだろう。午後1時を回った段階では、三方分山のはるか手前を歩いていたと推測される。午後1時の段階で、判断をしておきたかつた。